



薩摩川内市長 岩切 秀雄

平成26年第1回市議会定例会

施政方針の概要

平成26年2月26日開会の平成26年第1回市議会定例会で岩切秀雄市長が述べた市政に関する考え方や方針の概要を紹介します。なお全文は市ホームページで紹介しています。

本市をめぐる最近の動き

1月5日、多くの市民が見守る中で、消防出初式が厳粛かつ盛大に執り行われました。これを皮切りに、九州新幹線・肥薩おれんじ鉄道開業10周年記念式典、川内甕島航路開設記念式典、第30回国民文化祭プレ大会、新消防庁舎の完成など大きな行事が、今後数多く控えております。これらの10周年記念事業を着実に展開してまいります。

薩摩川内スポーツ大使につきましては、昨年末に日本ハムファイターズの木佐貫洋投手に、今年1月に愛知製鋼陸上競技部の児玉泰介監督、今年2月に読売巨人軍の杉内俊哉投手に対しお願いしました。これまでお願いした方々も含めた4競技6名の大使の皆さまには、深く感謝し、総合運動公園を中心としたスポーツ合宿の誘致やスポーツ交流研修センターの宣伝活動に強く期待しております。

次世代エネルギーにつきましても、2月10日、総合運動公園において、次世代エネルギーを防災面にも活用できる太陽光発電設備の竣工式を行

いました。発電した電気は、災害時に避難所となるアリーナ施設などへの供給が可能となり、防災機能の強化が図られることとなります。また、

2月24日、中越パルプ工業株式会社の本質バイオマス発電所の設置に伴う立地協定を締結いたしました。来年11月に運転開始予定で、一般家庭約4万3000軒分に相当する発電量が見込まれる九州では最大級の設備となります。燃料用としての未利用木材の伐採・運搬などによる森林整備や雇用創出の期待も高まります。

平成24年に下甕島で発掘された歯の化石が、植物食恐竜の竜脚類のものである可能性が高まったため、今年2月に公表いたしました。宝の島である甕島が、これまでも増して全国から注目を浴びるものと期待しております。

黒木地区コミュニティ協議会が、県の最高賞「コミュニティづくり推進協議会会長賞」を受賞されました。本市における地域での共生・協働の活動が高く評価されました。今後、さらなる活動の充実を期待いたします。

今年1月、FIM九州工場の跡地を市が購入するために必要な事項について会社側と合意し、土地売買に係る基本合意書を締結いたしました。

FIM九州工場の事業閉鎖は、誠に残念であります。この逆境を乗り越えるためにも、購入予定の工場跡地を最大限に活用し、企業誘致に全力で取り組んでまいります。

昨年7月から川内原子力発電所1・2号機の新規制基準への適合性審査が行われております。再稼働につきましても、厳しい審査をクリアし、安全性が確認された後、国が説明する県・市主催の住民説明会を経て、市議会の意見を踏まえた上で判断したいと考えます。

本年度の施策概要

①次世代エネルギーの導入推進

地球にやさしい環境整備事業、川内駅ゼロエミステーション化(低炭素化)実証事業などを継続します。新たに公用車EV(電気自動車)導入事業により、市内外にエネルギーのまちを積極的に発信し

ます。また、小鷹小水力発電設備見学施設整備事業により、次世代エネルギーを観光や教育に活用してまいります。

②NPOなどの活動支援制度の強化

高齢者の仲間づくりを支える教室開催をNPO法人などに委託し実施する、楽しく元気づくり支援事業および、市民団体自らが企画され公益的に活動される事業を支援する、市民活動支援補助金事業を実施いたします。

③農林漁業の六次産業化の促進

農林漁業者の所得の確保を目指し、意識啓発および人材育成のためのシンポジウムや研修会などを実施します。昨年7月に制定いたしました薩摩川内市農林漁業の六次産業化の促進に関する条例を踏まえ、農林漁業の六次産業化の実施を支援するための補助制度を創設いたします。

④成長戦略の展開による地域雇用の創出

地域成長戦略補助や新産業創出事業補助などにより、企業誘致や起業、転業および雇用創出に対する支援を引き続き行います。企業連携協議会

によるビジネスマッチング、シティセールスによる観光物産の産業化促進、地域の活性化やコミュニティビジネスにつながる地域資源利活用事業や川内港利活用推進事業を継続し、高齢者見守りサービスなどを付加したスマートゲリッド実証試験を実施いたします。

⑤社会基盤整備

中心市街地への交通の分散化と住宅地の安全性の確保を図るため、川内川市街部改修事業と一体的に市道中郷五代線を整備いたします。

民間活力を活用した取り組みとして、市有地の有効活用と駅周辺地域の魅力向上を図るため、プロポーザルによる施設整備を進める川内駅東口市有地利活用事業を展開し、新たな「にぎわいの創出」を目指してまいります。

⑥花いっぱいによるまちづくり

今後も花いっぱいまちづくり推進事業を推進し、元氣あふれる心豊かなまちづくりに取り組めます。また、観光客の目と心を楽しませる「おもてなし」にもつながりたいと考えております。

東郷地域における平成31年4月の小中一貫校開校に向けた用地を取得するなど、事業を進めてまいります。

予算の大綱

今後の行財政運営に関しましては、喫緊の課題である雇用・経済対策を始め、地域成長戦略の展開、社会保障関連経費の上昇、公共施設などの維持経費の増大などに対応しなければなりません。そのようなか、財源面においては平成27年度から普通交付税の市町村合併措置が段階的に縮減されることになっております。これらに対応するためには、

施策展開の方向性、歳出削減策および財源充当の重点化・シフト化を一体的に展開する必要があります。行財政運営の方向性を示した「財政運営プログラム」を平成25年度当初予算からその取り組みを本格化したところであります。平成26年度予算においては、合併10年目を迎え、今後10年間の発展の方向付けをする予算と位置付け、交付税縮減などを踏まえ力強い予算編成に

取り組みました。これまで以上に徹底した経費の削減や制度の見直しを行い、必要な施策分野の財源確保に努めることを基本姿勢としています。産業振興と雇用創出の実現、人口の減少や少子高齢化への対策、安全安心なまちづくりなどの課題を踏まえて、先に述べました施策概要から、その計画的な展開を図るべく予算を編成し、「交流・連携による活力創出予算」としたところであります。

これらの結果、一般会計当初予算の規模は前年度当初予算に比べ、7・7%増の534億円、簡易水道など14の特別会計の合計で285億5284万円となりました。

むすび

市制施行10周年の節目の今年は、次の10年に向けての礎となる大切な1年であります。いよいよ4月2日には、念願の高速船甕島が就航し、7月には、防災活動拠点施設となる新消防庁舎が完成いたします。市民の一体感の醸成に一層の磨きをかけるとともに、本市の勢いと力強さを押し進

